

大学生活は、多くの通過点(PASSAGE)を乗り越えながら、人生における重要な一節(PASSAGE)となる。  
PASSAGEは、経営学部のさまざまな学習経験を支え、教員・学生の相互対話を促す窓という意味を込めたものです。

2013  
Vol.20

# PASSAGES

## 就活Labo

■ 民間企業編  
民間企業内定者に聞く[11名]

■ 公務員編  
公務員内定者に聞く[7名]

**就活Data** 就職活動の地理的範囲／勤務地／内定に至るまで  
就職活動にかかった費用／アルバイト

豊平シンクタンク

## 教員の研究紹介

【在外研修編】

菅原秀幸『スタンフォードを語る』

## ゼミなび

【文献輪講・講読図書紹介(後編)】

採用している本の紹介

大場ゼミ／大平ゼミ／赤石ゼミ／下村ゼミ  
石井ゼミ／今村ゼミ／庄司ゼミ／増地ゼミ

<http://www.ba-hgu.jp/>

豊平  
シンクタンク

## 菅原 秀幸 『スタンフォードを語る』

— 挑戦、イノベーション、創造の地、スタンフォード大学 —

経営学部では、教授：菅原秀幸先生が研究活動の目的で2011年10月から2012年9月の期間でスタンフォード大学に留学しました。菅原秀幸先生がスタンフォード大学留学で得たもの、感じたものとは？  
今回、その貴重な経験についてお聞きしました。

## I シリコンバレーとスタンフォード大学とは？

スタンフォード大学はシリコンバレーにある大学です。まず、菅原先生にシリコンバレーとスタンフォード大学についてお聞きします。菅原先生がスタンフォードに着目した理由とは？ 日本との違いとは？ シリコンバレー、スタンフォード大学の印象は？ 菅原先生が肌で感じたスタンフォードとはどのようなものでしょうか。

## — シリコンバレーとスタンフォード大学についてお聞かせ下さい。

アップル、グーグル、フェイスブックといった誰もが知っているIT企業が軒を並べるのがシリコンバレーです。ここは、イノベーションの中心地、新しいことへの挑戦を意味する場所。世界中から人、金、エネルギーを引き付けています。その中核をなすのがスタンフォード大学で、世界屈指の名門校として、世界の大学ランキングでは、常にトップグループに位置し、幅広い分野で最先端の研究が行われています。

## — 最先端という点でスタンフォード大学を選ばれたのでしょうか？

このような大学で、世界中から一流の人々が集い切磋琢磨する中で、自分の研究をより一層進展させたいと、かねてより願っていた私は2011年9月から1年間、東アジア研究センターに客員研究員として滞在する機会を得ました。途上国の低所得層・貧困層の抱える課題を、ビジネスのアプローチによっていかに解決するか、途上国で現地の人々を巻き込んでイノベーションをおこし、これまで考えられなかったような新しいビジネス・モデルをいかに創り出すのかを探求する、というのが今回の研究目的です。イノベーションのメッカ、シリコンバレーで、その中心のスタンフォード大学こそがまさに最適だったのです。

## — 菅原先生が感じたシリコンバレーと日本の違いは？

シリコンバレーの人々は、「イノベーション」という言葉が大好きで、よく口にします。うまくいかなくても、次から次へと試していきます。とにかくやってみる。「前例がない」、「誰もやってない」という表現は、ここには存在しません。仮にあったとしても、「だからこそ、やってみよう」ということになるでしょう。

そういう人たちが集まってしのぎを削っているのだから、それは過酷な競争が繰り広げられています。時間との勝負。3か月遅れたらおしまいだと、私が知り合った起業家は言っていました。彼は、朝早くから夜遅くまで、さらに土日関係なく働くとのこと。日曜日の午後は、ちょうどアジアの月曜日午前中なので、アジアの取引先との会議にあてるとは都合がいいです。夫婦共働きで子供の世話も、もっぱら、おじいちゃん、おばあちゃんにまかせっきりのようです。

「なんでそんなに働くのか」との質問に、「野心だ」との返答。かたや「野心」が死語になってしまった日本。日本人が口にすることを聞いたことがないです。日本人がシリコンバレーでなかなか勝てないはず。

## — 先生がシリコンバレーでの生活で感じたことを教えてください。

シリコンバレーの気候は穏やかで、実に暮らしやすかったです。2月にはすでに梅が咲いて、春の気配がし、気候的にはとても住みやすい場所です。しかし、生活が落ち着いてきて周りがよく見えるようになってくると、実際に生活するには過酷な場所であることが分かりました。能力のある人間しかここでは暮らせないことが分かり、わが身のちっぽけさを痛感させられました。

特に**インド人と中国人のパワー**はすごく、いたるところで活躍している姿を目にし、残念ながら日本人は苦戦すると実感せざるを得ませんでした。いずれ自国に帰ると思っている日本人と、国を捨ててここにやってくるインド人や中国人とは、まったく生きる姿勢が異なっているのです。彼らは退路を断ってきているのだから、腰の据わり方が違います。21世紀は、確かにインド人と中国人の時代になるだろうと、否が応でも思わされました。

2月上旬には、中国の旧正月を祝いイベントが、スタンフォード大学のコンサート・ホールを貸し切って開催されました。ホールをびっしりと埋め尽くした中国人の姿は圧巻でした。言い知れぬ敗北感を突き付けられたような日々を過ごし、これからの自分の在り方を深く考える時でもありました。



## II スタンフォード大学での学びとは？

先ほど、スタンフォード大学に集まる人たちはパワーがすごく、「野心」があると菅原先生は言われました。それでは、スタンフォードではどんな授業が行われているのでしょうか。



### —— スタンフォード大学の特徴はどこにあると思いますか？

スタンフォードでは、多くの教員が、企業経営や起業に携わっており、現実と学問の間を行ったり来たりしています。シリコンバレーでは、研究成果が現実にとれぐらい役立つかが常に評価されるとのこと。とにかく挑戦することを奨励する環境に身を置いていると、教員、学生を問わず、だれもが、自分でも何かやりたいという気持ちになってきます。

7つの大学院がある中で、メディカル・スクール、ロー・スクール、ビジネス・スクールの3つが、なんといっても花形です。この3つのスクールの教授が、格上とされているのは、社会に直接貢献し、お金を稼ぐことができるかどうかの評価の基準となっているからでしょう。

この様な中で、異彩を放つのが**デザイン・スクール**(通称 **D school**)。このスクールは、特定の学部・大学院に属するのではなく、横断的な組織で、多様な専攻の学生・教授陣が集まり、途上国貧困層のニーズを満たし、生活水準の向上に貢献できる製品・サービスを開発することを目的としています。ここに集まる教員、学生は、単にお金儲けではなく、社会に貢献したいという強い意志をもってきます。

ここで行われている研究は、私自身の研究に合致し、新鮮でした。「異質なものととの出会いが創造につながる」と言われている、まさに異質性の宝庫から創造への挑戦が日々行われています。異質な人々が一つのチームを作って課題解決に挑戦する姿は感動的でした。

### —— スタンフォード大学で印象に残った授業は？

日本でも「**スタンフォードの白熱講義**」で有名な**ティナ・シーリング**女史の講義を、数回にわたって聴講し、多に学ぶ点がありました。徹底的に「**創造**」に焦点をあてて、いかに実現するかについて、毎回、議論を重ねていきます。その時々で、学外からゲスト・スピーカーを招き、実際のビジネスの現場での創造について話をしてもらいます。その講義模様は、ネットで公開されていて、いつでも、どこでも、だれでも観ることができます。大学のもつものは、「共有」という考え方が基本にあって、多くのことが、どんどん公開されていきます。キャンパス内はもちろんのこと、シリコンバレー地域では、どこでも、だれでも、無料でインターネットにつながる事が出来て、インターネットの活用では、日本はまったく及びません。

また**Entrepreneurship Week**も特徴的でした。スタンフォードでは毎年、2週間にわたって、学生の起業を支援する目的で、キャンパスのあちこちで、起業に関する多くのセミナーやワークショップが行われます。いくつかに参加する中で、スタンフォードの学生も、やはり学生、**能力の点からは、日本人学生と大差ない**と感じました。

ビジネス・スクールの学生が、自分たちのビジネス・モデルについて2分間プレゼンをし、ベンチャー・キャピタリストからコメントをもらうという企画がありました。スタンフォード・ビジネス・スクールの学生といえば、世界中から集まった超一流の学生だろうから、さぞやさしいプレゼンの数々だろうと期待していったところ、「あれっ」という感じでした。

### —— スタンフォード大学の雰囲気はどうでしょうか？

同じ人間、大差はありません。違いは環境にあります。スタンフォードでは、起業を支援する環境が整っており、挑戦しやすいのです。アメリカ人も同じ人間なので、日本人と同じように、やっぱりリスクをとることは怖い。でもリスクをとるように背中を押してくれるのがシリコンバレーなのです。

「**リスクをとって挑戦する**」、これができるかどうかが大きな違いです。それを後押しする環境が、日本よりはるかに整っています。ベンチャー・キャピタルが実際に投資するのは100案件のうち1案件だけといわれています。さらにそれが成功する確率は、より小さくなります。つまり、ほとんどは失敗。しかし、その失敗から学ぶことが財産になるのです。挑戦しなければ何も生まれないことを改めて思い知らされます。

### —— 挑戦する雰囲気はどこから生まれると感じたのでしょうか？

**スタンフォード流加点方式**です。ゼロからスタートして、ちょっとでもできたら、それを認めて点数を積み上げていく。失敗しても0のまま、正解するとプラスになるので、間違いを気にしないで、学生はどんどんチャレンジしていきます。これが、挑戦する姿勢をはぐくみ、多くのイノベーションを生み出す原動力の一つになっているように感じます。一方、日本は減点方式。100点満点からスタートして、失敗すると減点する。当然、学生は失敗を恐れて挑戦しないようになります。

もう一つ感心したことは、**年齢が話題になることは一切ない**ということ。年齢を聞くことは差別になり、聞いてはいけないので、当然、定年退職もありません。教員が働き続けるかリタイアするかは、あくまでも本人が自分で決めます。自分で自分を厳しく律し、強い自己規律と自己責任が求められるところです。

また、幼稚園生に対しても、先生や親が、「Yes or No」と常に聞いて、**本人の意思表示を求めている**点にも驚きました。いつも、YesかNoと応えて、そのあとに、Becauseを続けて、理由を述べます。これを小さな子が、当然のごとくに行っているのも、とても感動しました。

### —— 最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。

学生を評価する姿勢、自分で自分を厳しく律する姿勢、常に意思表示を尊重する姿勢は、私がこれから教壇に立つ中で、決して忘れてはいけないと肝に銘じています。研究者として、教育者として、いかに自分が足りないか思い知らされるスタンフォードでの日々。そして、そこから私の新たな「**挑戦**」が始まります。

# ゼミなび

## 【文献輪講・講読図書紹介(後編)】

### 大場ゼミ

柳井正  
『一勝九敗』  
新潮社 2003年



#### ■採用のねらい

担当教員：大場 四千男  
主な担当科目：経営史Ⅰ,Ⅱ

本書をゼミのテキストとして取り上げた一番の理由は、社会の仕事とその仕事に自分の生涯



をかける人生的意義について理解して欲しいと考えたからです。

仕事を生涯かけて続けるということはその人の持っている付加価値をさらに増やすことを意味します。すなわち、仕事をすることとは、柳井正にとって世間の人々の役に立ち、衣類を通して満足してもらい、さらに幸福感を衣類を通して味わってもらうことなのです。しかし、こうした満足、或いは幸福感を味わってもらえるようなカジュアルな衣類は十ののうちわずか一つだけであり、九の失敗を体験します。次にこの一つの成功を二つにつなげるかどうかはその人間の努力と社会貢献へのひたむきな努力と工夫とにかかっています。人間のすばらしさとはこの志(こころざし)をやりとげるかにかかっています。このことを学び取るのがゼミの課題です。

#### ■学生によるレビュー

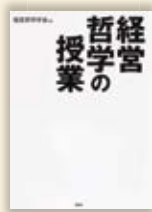
山口 翔豪  
出身高校：札幌藻岩

私が、『一勝九敗』を読んで、一番興味を持った点は、ユニクロ独自の会社システムというものです。

ユニクロは現在、日本のトップ企業にあり、トップ企業まで登りつめた要因のひとつとして、会社のもつ雰囲気があります。「社内で誰もが何でも発言できる雰囲気をつくるのが必要だと思う」と本書にあるように、ユニクロでは社員ひとりひとりが自由に何でも言い合え、常識にとらわれず、あらゆる視点、発想から物事を考えられる雰囲気作りをしているのです。若いうちに最大のエネルギーを発揮する環境、能力のある人が伸び伸びと力を発揮できる環境となり、それが、「会社の発展」につながります。この会社システムがユニクロの強さの要因のひとつだと考えられます。

### 大平ゼミ

日本経営哲学学会編  
『経営哲学の授業』  
PHP研究所 2011年



#### ■採用のねらい

担当教員：大平 義隆  
主な担当科目：経営学概論Ⅰ,Ⅱ

経営学部では1年生から経営学を学び始め、2年生からはゼミ活動がはじまります。



大平ゼミでは、「組織のデザインを学ぶ」をテーマに、ゼミ生は興味に合わせてそれぞれマネジメント、マーケティング、戦略に分かれ、実際に企業がどのような問題に遭遇し、どのような工夫を行って、それを克服しているのかを学んでいます。

特に休み中には企業を訪問しさまざまな経験を学びに変えるように努力しています。

特別演習では、これまでの集大成として『経営哲学の授業』(PHP出版)から不安定な内外環境の中で決断しなければいけない経営者を支える経営哲学を学び、自分自身が哲学を持つことの重要性を学びとることをめざしています。

#### ■学生によるレビュー

高道 大輝  
出身高校：札幌国際情報

私は欧米型の自由主義経済の論点から日本の経営を考えていましたが、日本型は全体を優先する考え方が哲学・経営哲学にあることを学び、興味深かったです。



また経営理念の創造プロセスという観点から哲学が論じられること、近年の企業不祥事を多角的に論じ、企業の社会的責任を確認・発見することも学びました。

特別演習を通じて得たものは、自分なりの哲学をもち、それを組織のなかで活かしていく能力です。

### 赤石ゼミ

伊丹敬之  
『経営を見る眼』  
東洋経済新報社 2007年



#### ■採用のねらい

担当教員：赤石 篤紀  
主な担当科目：ファイナンスⅠ,Ⅱ

本書は、経営学の第一人者である著者が、「自分たちの毎日の仕事や経営全体の中でのよ



うな位置づけになるのか」、「利益とはそもそも何なのか」、「人はなぜ想定通り働かないのか」、「組織全体のマネジメントは一体どうということなのか」といったトピックスについて、分かりやすく書かれたもので、各章も通学の電車でも読み切れる短いものとなっていることも特徴です。

この本での学習を通じて、「経営学を見る眼」を少しばかり養い、2年生から本格化する専門科目での学びを補うことをねらいとして、演習Ⅰにおける講読書として採用しています。

#### ■学生によるレビュー

渋谷 芳亮  
出身高校：札幌月寒

私たちは、毎回この本を1章ずつ家で読み、その章のまとめを作っています。



そして、演習内に、章の内容について、自分のまとめをみながら、グループワークを行うという形で演習を進めています。

本書の各章には、決まった大まかな流れがあります。さわりの部分では経営に関する問いのようなものがあり、それを著者なりに定義します。その後、具体的な例や前の章で出てきた内容等で補強していくというものです。

問いに対する答えはあるものの、それに対して具体的に何をすればいいのかということは書いておらず、自分自身で考えなければいけません。また、「言われてみれば確かに」、「なるほど」となることも多く、読みやすくて、興味深く、かつ自分の成長につながる本だと思います。

### 下村ゼミ

水越康介  
『Q&Aマーケティングの基本50』  
日本経済新聞出版社 2010年



#### ■採用のねらい

担当教員：下村 直樹  
主な担当科目：マーケティング・コミュニケーションⅠ,Ⅱ

マーケティングの教科書は、数え切れないほどありますが、①適度な文章の量で簡潔に書かれて



いる、②図表が多く使われている、③マーケティングをはじめて学ぶ人でも頭に入ってきやすい、という3つの点からゼミIではこの本を使っています。

ここ数年の大学生の傾向として、メールをはじめとする極端に短い文章に慣れすぎているせいで、逆に長い文章を読んだ経験が少ない、長い文章が読めないという人が多くなっています。このような学生さんにも苦痛なく読むことができるマーケティングの教科書がこの本ではないかと思っています。

#### ■学生によるレビュー

上田 有香  
出身高校：藤女子

この本は、1項目あたり、4ページ程の読み切りスタイルで、1つのQuestionとAnswerが完結しているので、どこからでも読めるという点が非常に良いです。この本のタイトル通り、難しいマーケティング用語もQ&Aで初心者でもわかりやすく解説されているので、これ一冊でマーケティングの基本がさっと学べます。

例えば、『値下げとポイント発行、どちらが効果的ですか?』というQuestion。あなたなら、知りたくないですか? 普段、私たちが日常で抱きそうなきざまなマーケティングの疑問をそのまま50個に凝縮した一冊となっています。



ゼミナール(演習)とは**少人数**で実施される科目で、教員の下で特定の分野を専門的に深く勉強してゆく科目です。**文献輪講・講読**とは、ゼミナールでの主な内容の一つで、**専門書などの文献・図書**を**学生と教員がじっくり読む**ことで、その分野を深く理解しようとするものです。Passage19号、20号の2号連続で各ゼミナールの文献輪講・講読で用いている図書を担当教員とゼミ生が紹介していきます。**ゼミではどんなことをするのか？ また、それぞれの分野を勉強する上での必読書は？** そのようなことをこの記事から読み解いていただくと幸いです。

## 石井ゼミ

伊丹敬之・加護野忠男 他

『ケースブック 日本企業の経営行動2 企業家精神と戦略』  
有斐閣 1998年



### ■採用のねらい

担当教員：石井 耕

主な担当科目：企業行動Ⅰ,Ⅱ

ゼミでは、学生が「良い就職」を目指し、企業研究の方法を身につけることを目的としています。



まずゼミIでは、日本企業の経営戦略および経営者に関する事例を学びます。そのテキストとして、上記文献を採用しています。

事例研究の対象は、日本の大企業であり、トヨタ自動車、本田技研工業、ヤマト運輸、キャノン、アサヒビール、ブリヂストン、コープこうべ、セコム、日清食品などです。

あわせて、DVDをみることで、事例について「実感」を持つことも行っています。また、最新の企業・産業データを利用して、事例企業の「現在」についても把握します。その上で、文献検索によって、企業研究の方法を体験します。

さらに、個人研究やグループ研究の結果を、パワーポイントで報告し、ゼミIIではゼミ論文としてまとめます。

### ■学生によるレビュー

斉藤 広将

出身高校：厚真

私がレポート作成に実際に利用した内容は、ソニーと日本ビクターのVTRの開発をめぐる競争についてです。最終的には日本ビクターが定めた規格が世界共通の規格になりましたが、その過程では様々な競争がありました。この本では文章だけではなく、当時開発していたものの写真や性能比較の表、シェアのグラフがあり、具体的な数字が書いてあるため、とても理解しやすくなっていました。



この他にも、トヨタ自動車やアサヒビールといった有名な企業の事例が業界を問わず、数多く載っているので、興味のある企業や業界の革新が見つかるのもよいと思います。

## 今村ゼミ

櫻井久勝

『財務会計講義』  
中央経済社 2012年



### ■採用のねらい

担当教員：今村 聡

主な担当科目：原価計算Ⅰ,Ⅱ

1994年以来、版を重ね(2012年には第13版)、大学での財務会計論および財務諸表論のテキストとして広く用いられている本書は、正直なところ、少し難しいかなとも考えましたが、ゼミの輪読で取り上げることにしました。



今日における財務会計の論点が網羅され、また会計基準の新設・改訂にあわせて頻りに改訂が行われていることは周知の通りですが、それだけでなく、会計制度の根拠となる理論や考え方が丁寧に解説されている点が、本書の優れたところとします。

今日における財務会計の論点が網羅され、また会計基準の新設・改訂にあわせて頻りに改訂が行われていることは周知の通りですが、それだけでなく、会計制度の根拠となる理論や考え方が丁寧に解説されている点が、本書の優れたところとします。設例問題を、Excelソフトに数値を入れて納得して行くのは、正直に言って骨が折れますが、じっくり読み進む価値がある本です。

### ■学生によるレビュー

岩谷 樹

出身高校：札幌東商業

現在、私たちのゼミで使用している『財務会計講義』には、財務会計についての総論的な記述から、設例問題を通じて会計処理を学ぶことまでが一つに収まっています。

本文の内容はとても難しく、一度読むだけで理解するのは大変ではありませんが、ゼミ以外の講義では表面上でしか学ぶことができないものも、本文を読んで論理的に、また設例問題をゼミの全員で追うことにより、実践的に理解することができ、簿記処理の根底にある理論を身につけることができます。



## 庄司ゼミ

山田英夫・山根節

『なぜ、あの会社は、儲かるのか?』  
日本経済新聞社 2006年



### ■採用のねらい

担当教員：庄司 樹古

主な担当科目：簿記Ⅰ,Ⅱ

この本は、2006年に日本経済新聞社から刊行された「会計と経営戦略」に関する本です。



個人的には、会計と経営戦略の関係を総合的に考えることが経営学で会計を学ぶ意義ないし必要性であると思っています。しかし、多くの学生さんは、会計の基礎である簿記の勉強(言葉の勉強)でつまずいてしまい、企業経営における会計の本当の役割を理解できないまま、会計嫌いになってしまっているようにも感じています。

そこで、企業経営における戦略的な側面と会計との関わりを中心に、会計を楽しく勉強してもらうために、ユニクロ、NTTドコモやキャノンなどの実際の経営戦略を会計の側面から考察している本著を、ゼミの課題図書として採用しています。

### ■学生によるレビュー

林口 悠太

出身高校：岩見沢東

この本を読んで、企業経営と会計を繋げて考えることの大切さを学ぶことができました。会計を学ぶことにより、企業が採用した戦略の結果を理解できるようになり、また、その数値化(可視化)ができるようになります。



そして、何より本著では、実際の企業を例として企業存続のための利益モデルやプロフィットゾーンに関する分析がされているので、「差別化」、「ジレットモデル」、「ライフサイクル」などの考え方をユニクロ、ドコモ、吉野家などの身近な企業と絡めて学習することができました。数字から企業戦略を考察する手法などを学ぶことができ、より企業経営への関心を高めることができました。

そして、何より本著では、実際の企業を例として企業存続のための利益モデルやプロフィットゾーンに関する分析がされているので、「差別化」、「ジレットモデル」、「ライフサイクル」などの考え方をユニクロ、ドコモ、吉野家などの身近な企業と絡めて学習することができました。数字から企業戦略を考察する手法などを学ぶことができ、より企業経営への関心を高めることができました。

## 増地ゼミ

深田博己

『インターネットコミュニケーション対人コミュニケーションの心理学』  
北大路書房 1998年



### ■採用のねらい

担当教員：増地 あゆみ

主な担当科目：組織心理学Ⅰ,Ⅱ

増地ゼミでは『集団のコミュニケーションと意思決定』をテーマとして、「集団問題解決」や「コミュニケーション」、「説得と交渉」など6つのトピックについて学びます。



様々なゲームやシミュレーションでの体験に基づき、集団活動の過程で求められるコミュニケーションや相互理解のあり方、目標共有の重要性についても考えます。

本書はコミュニケーションに関する心理学的研究の成果をまとめたもので、「コミュニケーションとは何か」という基本的な定義から、「説得」や「取り引き」の実践的な技法まで、対人コミュニケーションの問題を広く扱っています。普段、何気なく行っているコミュニケーションの成立過程について理解を深め、他者とのコミュニケーションを見直すための材料になればと考え、ゼミで講読しています。

### ■学生によるレビュー

奥野 可菜未

出身高校：芽室

コミュニケーションとは何か。また、当たり前に使われている言葉や身振りはコミュニケーションにどのような影響を与えているのか、といった普段深く考えることはないであろうことが本書には記されています。他にも、他人に頼みごとをするとき、どのような要請技法を用いれば承諾を得やすいか、など日常に役立つことがたくさん書いてあります。



人間の行動と目に見えない心理、コミュニケーションの本質について、今まで知らなかったことや日常に役立てられることが学べる一冊だと感じます。

人間の行動と目に見えない心理、コミュニケーションの本質について、今まで知らなかったことや日常に役立てられることが学べる一冊だと感じます。

今回の就活Laboでは、現4年生に、大学生活を振り返ってもらいながら、どういったことが就職活動に活きたのかについて、体験談の形で話してもらいました。経営学部の生活の中で得られるものも、たくさんあるようです。大学生活の送り方は、人それぞれですが、参考にしてみてください。

■ 大学生活全般での心得 ■

ひとつひとつの出会いを大切に

塩田 涼介

内定先：協同組合  
所属ゼミ：田村ゼミ  
出身高校：稚内



大学に来て出会った友達、アルバイト先の仲間など新たな出会いを大切にしていました。そうすることにより、コミュニケーション力はもちろん、情報の共有、さらに自分の考えや視野を広げることもつながりました。

これが私の就職活動の原動力となり、良い活動ができました。これから就職活動を始めるみなさんにもひとつひとつの出会いを大切にしてもらいたいです。

精一杯の大学生活を

齋藤 綾乃

内定先：小売企業  
(コンビニエンスストア)  
所属ゼミ：増地ゼミ  
出身高校：双葉



1年生のときから柔道部に所属し、週6日の練習に参加する一方、週4日のアルバイトを行っていました。もちろん、勉強も怠らず、何事にも一生懸命に取り組むようにしていました。

3年間、忙しいながらも予定を立てて行動してきたことで自然と自己管理ができるようになり、就職活動での時間管理にも役立ちました。

また、様々なことに挑戦していたことで、大学生活で何を頑張ったのかと問われたときに困らず、ESを書くことに苦勞はしませんでした。大学時代をしっかりと過ごしたことが、就職活動でも活きたと思います。

■ 企業研修を通じて得られるもの ■

研修先に志望業界の企業があれば、儲けもの

佐藤 和輝

内定先：水産食品メーカー  
所属ゼミ：石嶋ゼミ  
出身高校：留萌



私は地元の水産食品メーカーへの就職を志望していたこともあって、関連する企業が属する研修先(札幌中央水産)があった企業研修を履修しました。そこで、業界や仕事について理解を深めるだけでなく、実際に働くことで、この業界の仕事のやりがいや楽しさ、辛さを実感しました。

同業界の企業で研修したことで、第一志望の会社で働きたいという熱意、その会社で何をしたいかについて、他の人よりも、より深く具体的に伝えることができ、内定を得ることにつながりました。

企業研修を通じて、働く姿をイメージする

小池沙耶香

内定先：通信機器販売会社  
所属ゼミ：大平ゼミ  
出身高校：江別



就職活動を進める中で、3年次に履修した企業研修(毎日新聞社)が役に立ったと感じています。私は、研修を通して、社会で求められる人材像を認識し、「働くこと」に対する意識を変えることができました。研修後は、自分が働く姿を具体的にイメージできるようになり、面接でも自然に仕事への熱意を伝えることができました。

また、議員インターンシップやアルバイト等のこれまでの経験は、履歴書やES、面接での材料にできたので、学生生活での経験全てが就活に生きてくると思います。

■ 演習での活動を通じて得られるもの ■

コミュニケーション能力と観察力を養う

桑原 有希

内定先：アパレル  
所属ゼミ：森永ゼミ  
出身高校：札幌手稲

私はゼミで、商品の開発や販売方法、顧客調査の研究を行いました。このゼミで、相手に自分の意見を伝え、相手の意見を受け止める「コミュニケーション能力」と、色々なことに興味を持ち、観察し、検証する「観察力」を身につけました。

コミュニケーション能力は企業が最も求める能力であり、就職活動では自分の想いや熱意を伝える場がたくさんあります。また、観察力は就職活動だけでなく、働く上で必須となるため、とても役立ちました。



ゼミで与えられる機会を活かして成長する

藤田 直也

内定先：陸運(鉄道)会社  
所属ゼミ：関ゼミ  
出身高校：札幌清田

ゼミを通じて数多くのチャンスが与えられ、積極的な行動をとるようになって仕向けられたことが、私にとって良い影響を与えてくれました。

特に授業外の部分で、学内で行われた学会の仕事や入学案内における学部代表学生としてのインタビューを受けさせていただいたことが最も刺激を受けました。このような、自ら積極的に取り組んだ経験が、就職活動における私の強い自信となり、自分自身の上で必須となる土台の形成へと繋がりました。



企業を分析する能力を養う

鈴木 閑

内定先：小売企業(百貨店)  
所属ゼミ：庄司ゼミ  
出身高校：妹背牛商業

ゼミでは、様々な企業分析の方法を学び、企業の強みや弱みについて考えました。就職活動では、この知識と経験から、選考企業の強みや弱みをライバル企業と比較したり、企業を取り巻く環境と企業の将来性を詳しく考えることができました。

また、演習の先生と対策を練って臨んだ面接では会社と共に自分を成長させるというWin-Winの関係をアピールして、内定を得ることができました。

卒業を迎える今、振り返ってみると、演習は大変でしたが、自信を持って社会へスタートできる土台ができたことに大変満足しています。



企業に関わる機会を通じて、自分なりの軸を見つける

宮本安由美

内定先：証券会社  
所属ゼミ：佐藤ゼミ  
出身高校：札幌旭丘

私のゼミでは、インターンシップや論文作成のためのインタビューなど企業と関わる機会が多く、早い段階で自分がどのような社会人になってどう働きたいのかを考えることができました。

何のために社会で働くのかという「働く目的」を明確にすることで、その目的とマッチした業界・業種が見えてきたり、企業を選ぶ「軸」を定めることができたり、「ここで働きたい!」という強い気持ちを持って就職活動に取り組めると思います。



目標を持って演習を選び、成果を得る

武田 織江

内定先：信用金庫  
所属ゼミ：高木ゼミ  
出身高校：岩見沢東

私は、将来金融関係の仕事に就きたいと思っていたので、会計分野の知識を得ることに務めました。2年生から属した会計分野のゼミでは金融機関の融資先となる企業の財務について、いろいろな角度から分析することができました。

また、ゼミの仲間とグループワークで意見を交わし切磋琢磨したことや会計関係の資格取得に向けて計画立てて勉強していたことが、グループディスカッションや面接で役立ちました。



「納得のいく就職活動を行うためには何が必要なのか」、「振り返ったときに、何をやればよかったと思うのか」、また就職活動におけるエントリーシート等の作成方法、面接での心得といった、就職活動に関するより実践的なトピックについては、バックナンバー(18号、19号: <http://ba.hgu.jp/passages/>)の就活Laboも参照してください。こちらに詳しく掲載しています。

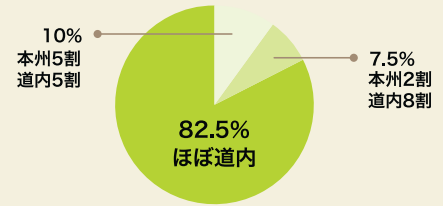


# 就活Data

主に特別演習履修の4年生(1部・2部)を対象としたアンケート調査(回答数:40人)から、就職活動の実態に迫ってみたい。

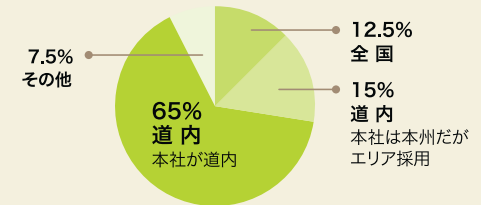
## ■就職活動の地理的範囲

「就職活動の地理的範囲を教えてください」という質問に対する回答は、下記の通り。ほとんどの学生(90%弱)が道内を中心とした就職活動を行っていることがうかがえます。



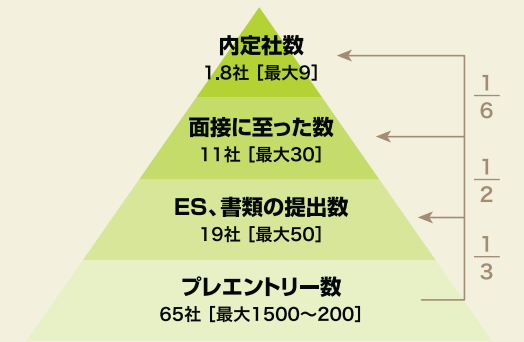
## ■勤務地

上でみたように、多くの学生が道内を中心に就職活動を行っているため、主たる勤務地は道内となるようです。



## ■内定に至るまで

下図は内定に至るまでの過程(プレエントリー⇒ES、応募書類の提出⇒面接⇒内定)を表したものです。



\*プレエントリー…マイナビやリクナビなどの就職情報サイトないし企業のホームページで「エントリー」を行う旨のクリックを行うこと。これにより、セミナーの日時やES応募要領が通知されるようになり、ESの提出が行えるようになる。

## ■就職活動にかかった費用

【スーツ、靴、かばん等のビジネス用品購入費用を除く】

当然のことながら、就職活動の地理的範囲で大きく異なります。道内を中心に活動していた層(活動の8割以上を道内で行っていた層)で、平均4-5万円。道内を中心とした就職活動を行うのであれば、「5万円+スーツやかばん等のビジネス用品に必要な金額」と考えてもよいでしょう。

ただし、就職活動時期は、アルバイトを行う時間が制限されるので、月の収入の減少にも備えておく必要があります。

本州でも積極的に活動を行っていた層(本サンプルでは活動の5割を本州で行っていた層)で平均20万円。本州での合同説明会や企業単独の説明会、初期段階の選考が実費負担となる場合が多いので、航空券代や宿泊代などの経費がどうしてもかかってしまいます。

## ■アルバイト

アルバイトに関する質問では、「全くアルバイトをしていない」が42.5%、「従来と比べてアルバイトの回数を減らした」が27.5%となっており、多くの人が就職活動を最優先にしていたようです(従来と変わらずアルバイトをしていたのが30%)。

なお、就職活動中もアルバイトを行っていた人に、月当たりのアルバイト日数を聞いたところ、平均で12.5日間、アルバイトに従事していました。アルバイトを気分転換に使ったという意見もみられます。

道内を中心に活動する学生であれば、土日祝あるいは夜にアルバイトをしながら、就職活動をすることも可能でしょう。とはいえ、ESの作成には思った以上に時間がかかたりするので、注意は必要です。また、面接選考に進むと、会社側がインシアティブをとる形で面接日程が決まってくるので、急な面接などにも柔軟に対応できるアルバイトを選んでおく必要があります。

## ■就職活動における心構え

### 國井 嗣

#### 面接を楽しむという意識で

内定先:証券会社  
所属ゼミ:春日ゼミ  
出身高校:札幌創成



とにかく面接で楽しむことを意識することがコツだと思います。面接官はその業界・企業で何年も勤務してきた人ばかりです。面接は、そのような社会を知っている大人と話せる良い機会だということをとにかく意識していました。

受けている業界や企業を調べたり、自己PRを固めるといったことは、ほとんどの人が行っていることなので差が出にくいですが、ひとつひとつの出会いを大切に考える姿勢が、自然と良い印象を与えていたと思います。

### 平井 慎吾

#### オンとオフの切り替え

内定先:製薬会社  
所属ゼミ:石井(耕)ゼミ  
出身高校:札幌藻岩



就職活動を行っている、ESと自己分析、面接対策に追われる毎日になりがちですが、焦ってやったことは、ESの一字一句、面接では顔の表情や態度に表れるようで、どちらも人事の方には見透かされています。

そこで大事になってくるのがオフの時間です。私は、自分の趣味であるテニスやアルバイトを行い、あえて就職活動をオフにする時間を作ること、気持ちにゆとりをもたせるようにしました。就職活動も中盤に差し掛かってくると、どうしても焦りや不安が出てきます。そんなときこそ、オフの時間をはさみながら、就職活動を乗り切ってほしいと思います。

## 就職活動に関するアンケート調査より、名もなき回答者からのアドバイス

### 【アドバイス①】 どんな時も前向きに

就職活動をしていると、不安に押しつぶされそうになって下を向くこともあると思います。そんなときは息抜きをしたり友人と励ましあって乗り切ってください。就職活動を止めなければきっと縁のある会社が見つかります。あなたが一生懸命頑張っている姿は誰かが絶対見てくれているので前を向いてがんばってください。

### 【アドバイス②】 面接対策はほどほどに

あらかじめ作った回答を暗記、完璧な受け答えはあまり良くないようです。内定を頂いた企業の方がおっしゃっていました。

### 【アドバイス③】 頑張りすぎないこと

今後の人生を左右すると言っても過言ではない就職活動、力が入って一生懸命になることでしょ。しかし、最初からそれでは心が折れてしまって最後の方では適当な企業に就職することも考えられます。そうすると自分の力を活かせない職場にいらしてしまうことにもなり、もったいないと思います。そうならないためにも、緩急をつけて就職活動を楽しんで欲しいと思います。あなたを必要としている企業は絶対にあります。ですから広い視野を持って色々な企業を見てください。

### 【アドバイス④】 やっておきたい「企業研究」と「OB訪問」

就職活動の中で直面する問題は、企業研究不足による志望動機が明確でなくなるという問題です。現に私はESを書いた企業は30社以上ありましたが、ほとんど落とされず、研究不足のまま面接に臨んでしまいました。その結果、一次面接で志望動機がありがたくなるとしか言えず、「その動機ならウチじゃなくてもいいよね?」と言われても仕方ないような内容が多かったと思います。

やはり、志望動機として強さが出るのは、自分の足で見に行ったりすることが多かったときです。内定を頂いた企業では、実際に足を運んで、企業の良い点や足りない改善点を見つけたり、先輩社員の話をきいて自分はどう考えるかを真剣に考えて、そこから志望動機をつけたものでした。

後輩の皆さんに言えることは、自分は仕事をするとというイメージをもったときに何がしたいのかということ、経済を変えてイノベーションを興したい、理由は人それぞれです。そこから興味のある企業を探していき、そこじゃなきゃできないのか?ということを真剣に考えてみてください。その想いを面接官にぶつけていくうちに、「自分に合う」企業に出会えるのではないかと思います。

ES…エントリーシート(Entry Sheet)の略。イベントなどへの参加を希望する者が、参加希望の意思や必要事項などを記載し、その主催者に対して提出する書類・応募用紙のこと。就職活動においては、企業が独自にESを作成し、一次選考として応募者の絞り込みに使用することも多い。内容は、氏名と連絡先、出身高校や大学名を記載する欄のほか、各企業が設定する設問(志望動機や自己PRに関連する設問)がいくつかあり、記入欄が広く取られ、論述する形で記入することになっている。また、資格や特技などを記入するスペースもある。

# 就活Labo

## 公務員編

### 【公務員内定者に聞く】

経営学部の学生の多くは、主として企業のマネジメントを学習していることもあり、その就職先は、民間企業となります。しかしながら、経営学部でも、就職先として国や都道府県庁、市町村を志望する学生は少なくなく、公務員として働いている卒業生もたくさんいます。

2012年度は、都道府県(上級職)1名、都道府県(中級職)4名、国税専門官1名、国立大学法人1名、政令指定都市(札幌市など)4名、他市町村4名、都道府県警察4名、市消防2名となっています(経営学部1部のみ、2012年12月時点で届出のあったものについて、延べ人数で把握)。以下では、彼ら4月より公務員となる人が経営学部での学びを、どのように活かしたのかについて紹介します。

就職活動に関するより実践的なトピックスについては、バックナンバー(18号、19号: <http://ba.hgu.jp/passages/>)の就活Laboも参照してください。こちらに詳しく掲載しています。

### ■ 経営学部での学びが活かす ■

#### 関根 茂樹

内定先: 道内市役所  
所属ゼミ: 赤石ゼミ  
出身高校: 千歳  
得意・得点源科目: 数的処理、日本史



#### 企業経営を学ぶことで、公共団体の 独自性・特殊性がより理解できる

経営学部では企業そのものについて学ぶので、公共団体との違いについて理解することができました。民間企業のことを知ることで民間企業にはない公務員の良さというものが見えてくると思います。また、ゼミでは時事問題に触れる機会が数多くあったので、筆記試験の時事問題に対応できただけでなく、面接にも活かすことができました。

経営学部では社会事情や仕事について学ぶことができるので、面接重視に変わってきている公務員試験に対応しやすくなっていると思います。

#### 高道 大輝

内定先: 国税専門官  
所属ゼミ: 大平ゼミ  
出身高校: 札幌国際情報  
得意・得点源科目: 会计学、行政法



#### リーダーシップやマネジメントに関する 学びを面接で活かす

経営学部での講義がそのまま筆記試験で役に立つことは少ないですが、国税専門官の試験科目には会計学や商法があり、経営学部生にとっては有利に働きます。

また、現在の公務員は学力だけが求められていません。経営管理論や心理系の講義で学んだリーダーシップ力やマネジメント能力を面接でうまく表現できたことが内定につながったのではないかと思います。ゼミでの経営哲学・イノベーション論の学習は、官の世界でも重要な点だと思います。

#### 杉村 俊介

内定先: 政令指定都市市役所  
(行政職)  
所属ゼミ: 赤石ゼミ  
出身高校: 札幌旭丘  
得意・得点源科目: 判断推理、憲法



#### 経営学を通して、 公務員として働くことの意義を学ぶ

公務員は社会で暮らす人、全ての基礎を支えるいわば最強のサービス業だと考えていた私にとって、1つのbestよりも多くの人が納得できるbetterを導き出そうとする経営学はまさに最適でした。

確かに公務員試験の勉強に直接関係するわけではありません。しかし、経営学全般を通して、働くことや組織、ヒト・モノ・カネといった経営資源の動きについて学びながら学生生活を送ってきたからこそ、公務員を志望する動機や将来像に自信を持つことができたと思います。

#### 前田 貴大

内定先: 政令指定都市市役所  
(行政職)  
所属ゼミ: 石嶋ゼミ  
出身高校: 札幌平岸  
得意・得点源科目: 憲法、行政法



#### 分析力を養う

経営学部で学ぶことをそのまま公務員試験の筆記で活かすことは難しいですが、経営学部での経験は面接において大いに生きてくると思います。

経営学部では何かを分析するということが多く、それによって物事を多角的に分析するという力が養われ、志望先の官庁の行っている施策・政策を、経営学部ならではの視点で分析して、その先の展開可能性まで考えることができるようになりました。そこが面接時に評価してもらえたのではないかと考えています。

### ■ ゼミでの取り組みを通じて学べるもの ■

#### ゼミでの取り組みを通じて、地域の問題を、 そして自分ができる貢献を考える

#### 竹中 祐人

内定先: 道内市役所  
所属ゼミ: 森永ゼミ  
出身高校: 北海道栄  
得意・得点源科目: 英語、日本史



面接や面接カードの作成といった二次試験において、経営学部での学習が役立ちました。

特に、ゼミでは日経新聞を読み、興味のある事例をまとめてプレゼンを行うことが課題でしたので、日本全体の動向を把握する力が身に付きました。これにより、北海道の各地域が抱える問題に着目し、自分がその地域でどの様に貢献したいかを明確化することができました。また、経営学部で学んだ知識を活用することにより、様々な角度から地域の現状を知ることができたことで、志望動機も見つけやすくなり、面接時にも自分の言葉で発言できたと思います。

#### ゼミでの取り組みを通じて、 自分のやりたいことを考える

#### 辻村あゆみ

内定先: 都道府県庁(行政職)  
所属ゼミ: 赤石ゼミ  
出身高校: 札幌開成  
得意・得点源科目: 憲法、民法



社会に求められている人材像は民間も公務員も同じで、特に今の行政組織にこそ、組織や心理、会計など経営学部で培ったことを多く活かせるのではないかと思います。

私はゼミで研究を進めていく中で自分が自治体や官庁に入ってから何をしたいのか具体的にイメージできるようになり、面接のときにも自分の言葉で伝えることができました。

必ずしも第1希望の自治体や官庁から内定が出るとは限りませんが、決して諦めないことが大事です。次に向けて気持ちを切り替えることが合格につながっていくと思います。

#### ゼミでの活動を通じて、 学習習慣を確立する

#### 湯浅 智

内定先: 政令指定都市市役所  
(行政職)  
所属ゼミ: 石井(耕)ゼミ  
出身高校: 札幌篠路  
得意・得点源科目: 文章理解、行政法



ゼミの調べものや発表の準備の際、気になったことは理解するまで調べるということを心掛けるようにしていました。そのため、公務員試験の勉強のときには、必ずその日のうちに理解するという姿勢が身に付きました。

闇雲に問題をこなすよりも理解することを意識して勉強する方が試験本番で答えに繋がるはず。理解することに強い意識を持つようになった経営学部での経験が、私にとっては内定を得られた理由の1つだと思います。

vol.21  
PASSAGES Next Issue  
2013年8月発行予定

#### ■ 就活Labo

経営学部学生の内定先一覧

#### ■ 教員の研究紹介

【在外研修編】教授: 伊藤友章  
【科学研究費補助金採択研究】

#### ■ 経営学部キャリアサポートプログラム

企業研修/ビジネスモデル分析/キャリアデザイン講座